

第23回獣医学特別セミナー

癌幹細胞研究の現状と展望

2015年 1月27日 (火)

17:00-18:00

連獣4階大講義室

講師：森 正樹 教授

(大阪大学大学院医学研究科消化器外科学)

生物には幹細胞 (Stem Cell) と呼ばれる自己複製能と多分化能を有する細胞が存在する。厳密に管理された増殖と分化によって個体は発生し成長した後、組織全体としての恒常性を維持している。他方、腫瘍を構成する個々の細胞は形態的、機能的に不均一で、腫瘍形成能を持つ細胞は一部に限られる。腫瘍を構成する細胞の多様性と腫瘍形成能を説明するモデルの一つとして癌幹細胞モデル (Cancer Stem Cell Model) が知られている。これは自己増殖能と多分化能を備えた癌幹細胞 (Cancer Stem Cell: CSC) を頂点とした階層構造を形成するモデルである。CSCは組織幹細胞あるいは前駆細胞から発生し、細胞間の腫瘍形成能の差はエピジェネティックな性質によるものと解釈される。われわれは肝臓癌のCSCマーカーとしてCD13を同定したが、その後、CSCは細胞の代謝の側面からの研究が急進展している。特にWarburg効果から観察されるreactiveoxygen species(ROS)への対応の巧妙さがCSCをCSCならしめているらしい。本講演では最近のCSCの研究状況と今後の展望について述べる。

★ 教員・学生の積極的な参加をお願いします！ ★

連絡先：西川晋平 (5878)
加納 聖 (5883)
清水 隆 (5895)

共同獣医学部

